

令和5年度 御杖村社会福祉協議会 事業報告書

総 括

我が国は急速な少子高齢化などにより、世界に例のないスピードで人口減少が進み、社会・経済構造が大きく変化してきています。その変化は私たちの日常生活にも影を落とし、これまで培われた家庭・地域・職場などで支え合いの基盤が弱まったことにより、地域等とのつながりから分断された『社会的孤立』の状況におかれる方々が増えてきています。また、介護・認知症・子育て・障害・虐待・ひきこもりといった今日の問題などが複雑・多様化するとともに、個人や世帯においても複合化するなど、深刻な状況にあります。

世界を席卷した新型コロナウイルス感染症は、令和5年に感染症法上の5類に移行されましたが、その後の長引く物価高騰や相次ぐ自然災害により、私たちの暮らしの基盤がゆらぎ続けているといっても過言ではありません。

このような社会情勢のなか、当社会福祉協議会では地域活動の再開へ向けた支援、新たな困窮者への支援等、従来と異なる状況から課題を捉え地域住民、関係機関・団体とともに、地域課題や生活課題の解決に向け取組を進めるため、村から委託されている地域包括支援センターをはじめ、住民のニーズを的確に捉え、村・社会福祉施設・民生児童委員協議会・保健医療機関等との連携を密にし、本協議会が地域の福祉力を支える専門機関として、下記のとおり各種事業の推進を行い、地域福祉のより一層の充実と安定を図りました。

1. 職員の資質の向上

- 研修に出席し、職員の資質及び意識の向上を図る。

地域包括、介護予防関係

適切なケアマネジメント手法、認知症の方のケアマネジメント支援

地域包括支援センター職員研修、済生会中和病院地域連携研修会他
障害者（児）関係、
相談支援従事者研修、支援者向け研修会
権利擁護、日赤・共同募金関係
日常生活自立支援事業連絡会、赤十字事務会議、生活困窮者自立支援制
度の活用研修、その他社協関係

2. 福祉活動、福祉思想の普及

- 第45回御杖村社会福祉大会の開催
- 日本赤十字募金運動の実施（5月）募金額 282,600円（△11,400）
- 共同募金運動の実施（10月）募金額 191,900円（△7,240）
- ボランティアグループによるふれあい喫茶の運営 毎月2回実施

3. 地域福祉活動の充実向上

○ 在宅福祉サービス事業の推進

・地域福祉ネットワーク事業

ボランティア登録の推進（4団体65名登録）

地域サロン活動（元気にしとる会）の推進、支援

8地域で適宜実施（神末一中村・菅野一上郷中野・土屋原一堂前

水口・峯・中村、桃俣一全域）

延べ参加者 454名（36増）

ふれあい交流会

移動型 ふれあい日帰りツアー 15名

集合型 脳トレーニング 30名

己書による年賀状づくり教室 13名

- ・生活支援事業

 - サポーター15名 利用者23名

 - 配食サービス 利用者 5名

- ・子供学習支援事業

 - 子供が孤立することなく育まれる環境作り、子供の学力向上及び
子供やその家庭が抱える問題解決に向けた支援

 - 対象者1人 17回実施

- 障害福祉サービス事業の推進

 - ・障害者相談支援 18名（内 障害児 1名）

4. 介護保険事業等の実施

- 地域包括支援センター事業の運営

 - ・相談受付業務（新規） 35件

 - ・介護予防支援事業（要支援者の予防プラン作成）一委託含む

 - 延べ540件（59減）

- 居宅介護支援事業

 - ・要介護者の介護プラン作成 延べ441件（76件減）

5. 過疎地有償運送事業（デマンド交通）の運営

 - ・利用者登録者数 193名（新規登録26名）

 - ・利用実績 236日稼動 延べ1,905名（264名増）

6. 会務運営

- 理事会の開催

 - ・令和5年6月20日（令和4年度事業報告、決算の承認等）

- 令和6年3月22日（令和6年度事業計画、予算の承認等）
- 評議員会の開催
 - 令和5年6月27日（令和4年度事業報告、決算の承認等）
 - 令和6年3月29日（令和6年度事業計画、予算の承認等）
- その他
 - 民生児童委員協議会及び福祉関係団体との連絡調整
 - 村老人クラブ連合会運営に関する業務
 - 身体障害者福祉協議会及び母子寡婦福祉会の事務局
 - 高齢者文化教室（手芸、囲碁将棋教室等）運営に関する業務
 - シルバー人材センター運営に関する業務
 - 生活福祉資金貸付に関する業務
 - 善意銀行に関する業務